

# 2020 年東京大会に係る交通輸送における検討の方向性

## 1. 考慮すべき事項

### (1) 国内において過去に例のない規模のイベント

オリンピック大会期間中においては延べ約 800 万人、パラリンピック大会においては延べ約 240 万人の大会関係者及び観客が見込まれる、国内のイベントでは過去に例のない大規模な大会である。

### (2) 多数の賓客の訪問

大会期間中には、開会式等を中心に多数の元首級の賓客が東京を訪問することが考えられる（ロンドンの開会式には、100 人規模の国家元首級が訪問）ため、特別の交通輸送体制を取る必要があり一般交通への多大な影響が想定される。

### (3) 競技会場の立地上の特性

東京大会の競技会場等の多くは通勤、物流等に係る交通需要が集中している地域に立地している。また、選手村や会場が一定数集中していた多くの過去大会とは異なり、選手村、競技会場、メディア関連施設等が分散しており、交通への影響が広範囲に渡る。

### (4) ロンドン、リオを上回る人口、経済規模

東京は、その規模でロンドン、リオといった近年の開催都市を大きく上回り、我が国経済の中核として活発な経済活動が行われていることから、一般交通への影響は全国的に波及する可能性がある。

- ・人口：東京 3,584 万人、ロンドン 1,403 万人、リオ 1,599 万人
- ・経済規模：東京 161 兆 6,731 億円、ロンドン 63 兆 8,628 円

東京は一都三県、ロンドンはグレーターロンドン及び周辺 8 州の一部（人口：2014 年、経済規模：2012 年）、リオはリオデジャネイロ州（2010 年）での比較（出典：東京都都市整備局ホームページ、国際協力銀行ホームページ）

## 2. 検討の方向性

大会の成功のためには以上の事項を考慮した交通輸送に係る高度な調整が求められ、交通インフラの効率的運用を図りつつ、国民や企業等の交通行動を見直し、大会に係る輸送サービスの質の確保と市民生活や経済活動の安定の両立を図る方策を検討する必要がある。